

形 *forme 317号 / P12-13*

電車

鉛筆・色鉛筆・紙・830×297cm・1995以降

本岡 秀則

作品解説

コピー用紙や新聞広告の紙にびっしりと描き込まれた電車の数々。パンタグラフ、窓、ライト、車体番号といった正面から見た電車の特徴が、細部まで描き分けられている。対象を丁寧に描き写したい思いを感じる一方で、電車の形が一律に縦に引き伸ばされているところに、この絵の不思議さと魅力とがある。

本岡には「知っている電車をすべて一度に見渡したい」という動機があり、電車の幅を細めて一枚の紙に詰め込むスタイルに至った。知っている電車を描き切ったところで完成となるが、新型の電車が出ると、それを加えて一からすべてを描き直す。本岡はこうした描画を30年以上続けており、できた作品をクリアファイルにしまっては日々取り出し、眺めているという。動機と制作とが作者の内面において一直線に強く結びつく芸術はアール・ブリュットと呼ばれるが、本岡の「電車」もまた、自身の記憶を可視化したいという混じり気なしの動機に支えられており、芸術の起源へと鑑賞者をいざなう。

テキスト：細川英一（ART DIVER）